

〔都のにぎはひ〕四條新造之記

延寶二寅年四月十一日、畿内近國悉く大洪水して、五條橋落損じけれども、程なく元の如く板橋に造らしめ給○中略

嘉永三戌年九月三日、風雨にて五條橋少し欠落、猶また同五子年七月廿一日、夕より暴風強雨して、廿三日の朝に至、俄に加茂川洪水漲出て、三條五條の二橋損じ落、又々八月十六日にも洪水有て、三條五條の假橋さへ流失せしかば、暫しながらも往來絶たり、即時に船橋を掛させ給、ひしかば、通路滞りなし、

〔今日抄孝一〕明、弘化三年七月七日、京師大水、流三條五條二橋、

嘉永三年九月三日、京師大雨風、鴨川大溢、流五條橋二十間許、同五年七月二十二日、山城○中大

雨風、鴨、桂、淀、木津諸川、大溢皆決、流○中五條橋三十六間、多倒、五條石架、

山崎橋

〔伊呂波字類抄國也〕山崎橋本朝事始云、聖武天皇神龜三年、行基法師造、山崎橋、

〔拾芥抄下本〕大橋○中略

山崎○大渡○大

〔雍州府志山川〕乙訓郡 山崎橋 桓武天皇延曆三年甲子七月、造山崎橋、同年遷都於山城長岡郷、

今橋絶、

〔山州名跡志乙訓郡〕山崎橋 斷絶ス、此橋山崎方ハ今ノ觀音寺ノ前川畔也、其向所ハ淀ノ大橋ノ

南、河内街道ノ内、八幡山ノ坤ニ當テ、片方ノ人家茶店アリ、此人家ノ町北ノ端ヨリ三十間計北方、

其橋ノ渡場也ト云フ、其所古老ノ説也、因テ其邊ヲ橋本ト號ス、但今云フ橋本ノ宿ハ、後世ニ此所

ヨリ移シ建ル所也、此所今ハ舟渡也、

〔雍州府志古跡〕綴喜郡 橋本 在、金橋北、古山崎大渡橋在斯處、故稱橋本、八幡之神人、又在斯處、

〔古事談僧三〕神龜元年、行基菩薩造山崎橋、造了後、菩薩於橋上大設法會、而俄洪水出來、橋流了、人多